2016 年度アメリカ派遣留学体験レポート

新潟国際情報大学 国際学部 国際文化学科 ２年
21015070
高井 皓友

１．はじめに

今回アメリカ派遣留学へ参加して体験したことを以下に述べる。

２．移動・到着から授業開始まで

我々国際情報大学の生徒は、新潟駅に集合した後アメリカまでの道のりを共に過ごした。途中飛行機の乗り遅れ等複数のトラブルに見舞われながらも、無事目的地に辿り着くことができ安心した事は鮮明に覚えている。入寮した時刻は予定より遅れ深夜０時頃、最初は生活の勝手が全く分からず、翌朝に控えるオリエンテーションに参加できるかも不安なほどであった。数日間続いたオリエンテーションが終わる頃には時差ボケもかなり解消された。とはいっても、日本と比べ昼夜逆転の生活を強いられることで、日中の眠気が２週間ほど抜けずに過ごした記憶が残っている。授業が開始された頃には各々生活リズムが整い、異国の地における生活への不安も解消された。

３．カルチャーショック

日本を去りアメリカで生活するうえで、やはり現地におけるすべての文化をすぐに容易に受け入れることは私にとって困難であった。公共施設は日本より清潔でなく、多くの物が私にとって大きく感じられた。最も受け入れがたかったのは食事である。食堂では毎日ほぼ決まったものしか食べられず、日本食が恋しくなった。しかし、それらにショックを受けた原因は他でもない自分にある。日本での生活に一切の疑問を持たず、それを当たり前として生活していたからだ。私の留学の目的の一は、物事の考え方に幅広い価値観・多様性をもたらすことだった。文化の違いは、私にその目標を叶えさせるきっかけとなった。

４．人々との出会い・別れ

留学と切っても離せない関係にあるのは、現地での人々との出会いと別れである。ルームメイトを始めクラスメイト・先生・AB・CP・ホストファミリー等数多くの人たちと４ヶ月弱の間生活を共にしたわけである。そういった人々とは少なからず絆が生まれ、帰国を苦しめる大きな原因となる。今思えば、彼ら彼女ら

ともっと多くの事を語れば良かった、と思うこともある。私は今後も英語を勉強し、将来必ず世話になった人々と再会し成長した姿を見せたい。

５．おわりに

　今回私が派遣留学に参加するために、非常に多くの方々からお世話になった。参加決心を後押ししてくれた親を始め、先生方や学務課職員・仲間達・現地でのコーディネーター、誰一人が欠けても順調に進まなかったかもしれない。そう考えると、私の留学に携わってくださった方々全員に感謝しなければならない。来年のアメリカ派遣留学に参加するか迷っている学生は、今すぐ迷うことをやめ、参加を決心して欲しい。必ず自分自身を大きく成長させることができるだろう。